

**札幌市**  
**冬みちプラン 2018**  
**実行プログラム**

2019年度～2023年度

**【取組総括表】**

2019年12月  
札幌市

## 取組総括表

取組項目	種別	実施時期	実施内容
視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保			
(1) 効果的な除排雪の推進			
① 幹線道路の除排雪			
3 幹線道路(車道)の明け方降雪に対する対応強化	拡充	短期	a 明け方降雪の対応強化に向け、作業路線の設定条件の見直し b 通常の除雪作業において深夜に終えている除雪機械について、朝方に作業を終えるような作業計画に改善させるため、作業マニュアルなどの検討
4 バス路線の除排雪作業の強化	拡充	短期	a 「路肩の狭いバス路線」について、排雪強化を行う路線(延長)を段階的に増やしていきます。
			b 「路肩の狭いバス路線」について、新雪除雪と拡幅除雪の連続作業を進めます。
5 バス事業者との連絡体制の強化	拡充	短期	a 「大雪時の対応指針」に基づき警戒体制をとった場合には、速やかにバス事業者へ通知し、バス事業者から運休状況などの情報を得る体制を整備
7 幹線道路と生活道路の交差点排雪の強化	拡充	短期	a 除雪作業で積上げられた雪山により、見通しが悪化した幹線道路と生活道路の交差点の排雪強化
② 歩道の除雪生活道路の除排雪(除雪)			
10 生活道路の除雪方法変更に向けた検討	新規	短期	・ 今後の高齢化やそれに伴う担い手不足などの社会環境の変化に対応できるような作業方法について検討します。
11 道幅が狭い生活道路の除雪対応の検討	新規	短期	a 札幌市の除雪作業で使用している機械で作業可能な路線は、宅地に雪が入ることや塀が雪で押されることなど、作業を行うことによるデメリットに対して沿線住民の合意を得たうえで、除雪作業の実施に向けた検討を実施
			b 札幌市の除雪で使用している機械で作業できない路線について、地域の実態を把握したうえで対応方法を検討
12 生活道路におけるザクザク路面の対応に向けた強化	拡充	短期	a 気象予報やパトロールの結果からザクザク路面発生への予測に努め、適格に路面整正を実施
			b 現行の除雪方法から路面整正を基本とした除雪方法への変更を検討

実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
実施	作業マニュアル等の修正 優先路線の選定		明け方降雪への対応強化			●			●			21
37km	60km (23km 増)	83km (23km 増)	106km (23km 増)	129km (23km 増)	152km (23km 増)				●			13
一部の路線にて実施	対象路線等の調査・検討		対応可能な路線から実施									
	「大雪時の対応指針」に基づいたこれまでの体制を継続					●			●			21
	幹線道路と生活道路の交差点の排雪強化（12,500箇所）								●			22
—	2~4 地域	試行実施 4~8 地域	8~16 地域	実証実験 (全体の1割) (全体の2割)		●	●		●			15
調査	除雪作業の実施に向けた検討								●	●		22
調査	対応方法の検討											
—	作業マニュアル等の修正		ザクザク対応の強化を実施			●			●			22
—	取組項目 10. 「生活道路の除雪方法の変更にに向けた検討」と合わせて実施											

組項目	種別	実施 時期	実施内容
② 生活道路の除排雪（排雪）			
15 パートナーシップ排雪制度の見直し	新規	短期	・ 排雪時に運び出す雪の量を抑えた作業方法の実証実験を拡大するなど、地域の費用負担額を抑えた新たな選択肢を加えた制度運用の見直しを進めます。
16 パートナーシップ排雪制度に関する地域の合意形成への支援	拡充	短期	a パートナーシップ排雪制度に関する合意形成を図る地域に対して、実証実験に関する内容を含め制度の理解や協力を促すチラシを作成・配布
17 パートナーシップ排雪制度の夜間作業への一部切替	拡充	短期	a 夜間作業による効果や体制について調査 b 調査結果を踏まえた対応策の検討 c 地域と事業者が夜間作業を望む地域については、切り替えを推進
18 民間排雪サービスの利用状況を踏まえたパートナーシップ排雪制度の地域負担のあり方の検討	新規	短期	a 民間排雪サービスの利用状況がパートナーシップ排雪制度の排雪量に及ぼす影響を調査 b 調査結果を踏まえた対応を判断
④ 歩道の除雪			
25 歩道の明け方降雪に対する対応強化	拡充	短期	a 明け方降雪の対応強化に向け、作業路線の設定条件の見直し b 通常の除雪作業において深夜に終えている除雪機械について、朝方に作業を終えるような作業計画に改善させるため、作業マニュアルなどの見直し
(2)凍結路面对策の推進			
① 道路種別に応じた路面管理			
27 車道の凍結路面对策の強化	拡充	短期	a 道路種別や路線状況に応じた計画的な凍結防止剤などの散布 b 部分的に凍結路面が発生した場合の滑り止め材の散布などの緊急対応を強化
② 歩道の歩行環境の改善			
29 歩道の凍結路面对策の強化	新規	短期	a 「新・札幌市バリアフリー基本構想」で設定している生活関連経路や JR・地下鉄駅周辺などの人通りの多い歩道（延長：約 320km）において滑り止め材の散布回数を 20 回/年から 40 回/年に倍増するなどの強化を行います。 b 都心部などの緊急搬送人員が多いエリアについては、氷板除去などの強化を行います。

実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
			現行断面を継続									
実証実験 2017: 3団体 2018: 40団体	実証実験の 拡大	選択制の 開始	抑制断面の本格運用			●			●	●		17
チラシの 作成・配布			町内会への周知を強化						●	●		23
一部地域で 実施	調査・ 検討		理解が得られた地域から夜間作業を実施			●			●			23
調査	追加調査 検討		取組項目 15. 「パートナーシップ排雪制度の見直し」と合わせて実施						●	●		23
実施	作業マニュアル等の修正 優先路線の選定		明け方降雪への対応を強化実施			●			●			24
実施	作業マニュアル等の修正		凍結防止材等の散布を強化			●			●			24
			20回/年									
	320km	256km	192km	128km	64km	0km						
			40回/年						●			19
	0km	64km	128km	192km	256km	320km						
先行実施			効果の検証と拡大の検討									

組項目	種別	実施 時期	実施内容
30 歩道における効果的な滑り止め材の散布	新規	短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ウィンターライフ推進協議会などと連携し、歩行者から路面状況に関するリアルタイムの情報を取得</li> <li>b 歩行者から取得した情報を活用し効果的な対応を実施</li> <li>c ウィンターライフ推進協議会が発表している「つるつる予報」を活用し、積極的な滑り止め材の散布を実施</li> </ul>
31 歩道の凍結路面对策に関する技術的な検討	新規	短期	a 効率的な滑り止め材の散布や路面の氷板を処理する機械の検討
			b つるつる路面の発生を抑制する工法の検討
③ ロードヒーティングによる路面管理			
33 安価な熱源の活用に向けた検討	新規	短期	a 安価な熱源などの活用に向け、費用対効果、施設規模、周辺環境などを考慮したうえで、有効な方式については、施設更新にあわせて改修を検討
			b 未利用エネルギーの活用に向け、民間技術の動向を把握しながら、効果的な活用方法の検討
(3)大雪に備えた体制の確保			
① 「大雪時の対応指針」を基本とした体制の確保			
37 初冬期の大雪に対する臨機な対応	拡充	短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 初冬期の大雪に対応するため、雪堆積場や融雪施設の早期開設</li> <li>b 臨機な対応に必要な機材や人材を確保するための協力体制を構築</li> <li>c きめ細かな情報共有と連絡調整</li> <li>d 関係機関との連携や役割分担に向けた調整</li> </ul>
② 大雪に備えた情報発信			
39 警報発表時における市民への注意喚起	拡充	短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 札幌市のホームページやSNS（札幌市公式アカウント）、その他様々な媒体を活用した情報発信</li> <li>b 発信内容について検討・更新</li> </ul>
40 市民や観光客に対する情報発信	新規	短期	a 札幌市ホームページに外国人を含む観光客向けの啓発情報 ページを作成
			b 大雪時に執るべき行動を取りまとめたパンフレットやチラシの作成・配布
			c 啓発情報ページのPR チラシを作成し、観光協会やホテルなど観光客が手にしやすい施設に配架

実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
—	準備・調整		情報を活用した対応を実施			●			●	●		24
検討	粗面形成装置の使用拡大に向けた検討								●	●		25
検討	実証実験等による効果的な工法の検討											
—	有効な方式があれば更新にあわせて改修を検討					●						25
—	有効な方式について活用に向けた検討											
実施	初冬期の大雪時対応に必要な体制拡充に向けた検討		必要に応じて順次拡充			●			●			25
—	大雪警報や暴風警報時における情報発信								●			26
—	効果的な情報発信を実施											
—	内容の検討配布先調整	パンフレットやチラシの作成・配布							●			26

組項目	種別	実施時期	実施内容
<b>視点2 除排雪作業の効率化・省力化</b>			
<b>(1) 作業の効率化・省力化による生産性の向上</b>			
<b>① 作業の効率化・省力化</b>			
41 除雪機械の1人乗り化	新規	短期	a 機械の更新に合わせて安全装置が搭載された1人乗りの機械を導入
			b 現在使用中の機械にカメラやセンサーなどの安全装置を設置し、実証実験などにより安全状況を確認しながら1人乗り化を推進
42 雪堆積場の選定システムの導入	新規	短期	・ これまでは、各区の担当者が行っていた排雪作業の搬入先（雪堆積場）の選定を、今後は全市的な視点で最適化するシステムを導入します
43 除雪機械の運行管理システムの導入	新規	短期	・ 除雪機械にGPS受信端末を設置し、取得した位置情報などを活用して、作業状況を可視化するシステムを導入します
44 ビッグデータを活用した作業支援の検討	拡充	中長期	・ 最新の気象データ、現地映像、バスの遅延情報などのビッグデータを活用し作業判断を支援するシステムの検討
<b>② メリハリのある幹線道路の管理</b>			
46 メリハリをつけた除排雪の実施	拡充	短期	a 気象データ、プローブデータなどのビッグデータなどを活用し、交通の要所で冬期間に渋滞が発生しやすい交差点について、拡幅や路面の削り作業、凍結防止剤の散布作業などを強化
<b>(2) 雪対策施設の安定的・効率的な運用</b>			
<b>① 雪堆積場</b>			
47 雪堆積場の運用見直し	拡充	短期	a 排雪作業に必要な受け入れ量や箇所数を考慮しつつ、配置や運用方法の見直しなど、コストの縮減につながるような取組を実施
			b 年間の搬入量に対して容量に余裕のある雪堆積場は、ダンプトラックの回転効率や同時受入れ可能台数の拡大に向け、搬入出経路や投雪場所の改良（拡大）を行うなど、稼働率をより高めるための改善を検討
			c 雪堆積場従事者の労働環境改善に向け、近隣堆積場と調整を図りながら定期的な閉鎖日（閉鎖時間）の設定を検討



実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
22台	32台 (10台増)	43台 (11台増)	49台 (6台増)	56台 (7台増)	63台 (7台増)							
4台	実証実験 16台 (12台増) → 48台 (32台増)		本格運用 85台 (37台増) → 121台 (36台増) → 157台 (36台増)			●					★	27
—	システム設計	システム構築	仮想運用	本格運用 (システム改良)		●					★	29
調査・検討	システム構築 試験運用 (100台)	システム改築 部分運用 (500台)	全面運用 (1,000台) 最適な機械配置を検討するための データを除雪事業者へ提供			●					★	30
—			ICTを活用した 作業支援システムの検討			●					★	31
—	対象交差点 抽出	10箇所	20箇所	30箇所	交差点対象 見直し	●			●			36
—	調査検討	実施可能なものから順次見直しを実施 1箇所 → 1箇所 → 1箇所 → 1箇所										
—	調査検討	対応可能な堆積場（雪処理施設）から 適宜改善を実施				●	●					32
—	調整案の検討・試行		本格実施									

組項目	種別	実施時期	実施内容
49 排雪作業の効率化につながる雪堆積場の確保	拡充	短期	a 新たに活用可能な市街地近郊の候補地の掘り起こし b 新たな候補地の活用に向けた土地所有者や管理者との調整 c 市街地近郊の雪堆積場確保に向け、民活型雪堆積場の提案要件の見直しなどの検討
50 雪堆積場の安定的な確保に向けた検討(民有地)	新規	短期	a 複数年利用に向け、土地所有者の意向確認や周辺環境の調査 b 安定的な土地利用につながる制度内容の検討
51 雪堆積場の安定的な確保に向けた調整(公共用地)	拡充	短期	a 公共用地の管理者の意向確認や周辺環境の調査 b 恒久的な土地利用に向けた協議・調整
<b>② 雪処理施設</b>			
53 雪処理施設の能力増強	新規	短期	a 新川融雪槽の能力増強 b 新たな雪処理施設の整備の可能性を検討
54 流雪溝の利用促進に向けた取組の推進	拡充	短期	a 管理運営協議会へのアンケート調査 b 流雪溝の利用率が低い地域の改善に向け、アンケート調査で得られた利用率が高い地域の取組に関する情報を周知
55 流雪溝の更なる有効活用策の検討	拡充	短期	a 処理能力に余裕のある流雪溝について、公共排雪での活用に向けた有効活用策の検討
<b>(3) 地域内雪処理の推進</b>			
<b>① 民有地の活用</b>			
56 地域内雪処理の推進につながる仕組みの検討	新規	中長期	・ 地域内雪処理の推進に向け、空き地の洗い出しや活用に向けた土地所有者との調整方法などについて、先行的な他地域の事例紹介なども含め、地域(町内会)との対話を行いながら検討を実施します
57 除雪作業における民有地活用の検討	新規	中長期	a 空き地の活用ができそうな地域の洗い出し b 空き地活用事例の調査(ヒアリングなど) c 空き地の所有者から土地利用の承諾を得る方法(優遇策など)を検討 d 空き地の活用に向けた調整

実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
—	新たに活用可能な候補地の掘り起こし					●						36
提案要件見直し	必要に応じて見直しを検討											
—	調査	制度検討	準備が整ったものから制度運用			●						36
—	調査	協議・調整を行い整ったものから運用				●						37
概略設計	詳細設計	改築工事	改築工事	本格運用		●						33
	調査・検討		可能性のある取組の詳細検討・調整									
調査情報提供	必要に応じて情報共有を実施					●			●	●		37
—	調査・検討		可能なものから取組を実施			●			●			37
—	調査	町内会との対話を行いながら地域内雪処理の推進に向けた検討を実施				●			●	●		34
実施	空き地の洗い出しや活用事例の調査		活用に向けた調整			●			●	●		37
	土地所有者から承諾を得やすく（可能なものから活用開始）なる方法（優遇策など）を検討											

組項目	種別	実施 時期	実施内容
② 公共用地の活用			
59 雪置き場を考慮した公園づくりの推進	新規	短期	a 公園再整備の際に、住民説明会などの方法により雪置き場に対する地域の意向を確認 b 雪置き場を考慮した公園の再整備
61 除雪作業における公共用地活用の推進	新規	短期	a 小規模地も含めた活用可能な土地の新規洗い出し b 活用可能な公共施設については、沿線の道路や地域の雪を搬入 c 出入口や通路などの構造が理由で活用できない施設のうち、効果的と認められる施設については、ハード面での改築を検討

実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
実施	第4次札幌市みどりの基本計画策定（予定）											38
	調整が整った公園から雪置き場を考慮した再整備を実施					●			●	●		
実施	活用候補地の新規洗い出し					●						38
	施設管理者との調整が整った施設から活用								●			

組項目	種別	実施 時期	実施内容
<b>視点3 除排雪体制の維持・安定化</b>			
<b>(1) 経営の安定化につながる取組の推進</b>			
<b>② 除排雪作業に必要な人材の確保</b>			
65 除雪事業に参画する企業の人材確保への支援策	新規	短期	a 除排雪作業の意義や建設業の魅力など、札幌市の除雪事業に参画する企業のイメージアップにつながる情報を札幌市のホームページで発信、及び高校や大学へのPR b 札幌市除雪事業協会と連携して、札幌市の除雪事業に参画する企業が行う企業PRや求人のためのホームページ作成に対する支援事業を検討
68 建設業の人材確保に向けた支援事業の周知	新規	短期	a 建設業の人材確保につながる支援事業情報を取りまとめ、札幌市のホームページやパンフレットなどを活用した情報発信
69 建設業に就職を希望する人の入職につながる支援策の検討	新規	短期	a 札幌市除雪事業協会と連携して、札幌市の除雪事業に参画する企業を対象とした合同企業説明会の開催に向けた検討 b 高校・大学・専門学校などの学生に対する建設業のPRを実施
71 除雪従事者の魅力向上につながる情報発信	拡充	短期	a 除雪従事者のやりがいや達成感などがテレビや新聞など報道機関に取り上げられるよう、パブリシティ効果の高い情報を発信 b 除雪従事者のやりがいや魅力向上につながる動画などを札幌市のホームページで紹介 c 除雪従事者のPRにつながるポスターやパネルを作成・掲示
<b>③ 除排雪作業に必要な機材の確保</b>			
74 企業が保有する除雪機械の更新に対する支援	新規	短期	a 札幌市除雪事業協会と連携し除雪機械購入に関する支援制度などの情報を除雪事業者にも周知 b 保有する除雪機械の維持や更新に関して積極的な投資を行う除雪事業者に対する優遇策を検討

実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
—	← 発信可能なものから情報を発信 →							●		●		43
—	← 支援事業の検討 →		← 可能なものから実施 →									
—	準備	← ホームページやパンフレット等を活用した支援事業の情報発信 →							●			43
—	← 準備・調整 →		← 合同企業説明会の開催に向けた検討 →					●		●		43
—	準備 検討	← 準備が整ったものから取組を実施 →										
—	準備 調整	← 準備が整ったものから適宜実施 →										
—	準備 調整	← 準備が整ったものから適宜実施 →						●	●			44
—	準備 作成	← 準備が整ったものから適宜実施 →										
—	← 準備が整ったものから適宜実施 →											
—	← 検討・準備 →		← 準備が整ったものから取組を実施 →					●		●		44

組項目	種別	実施時期	実施内容
<b>(2) 除雪従事者の定着・育成支援</b>			
<b>① 労働環境の改善</b>			
75 作業経路などのナビゲーションシステムの導入	新規	中長期	・ 除雪機械の運行ルートや作業時の注意ポイントを可視化するシステムを導入します
76 作業日報などの提出書類の電子化	新規	短期	・ 除雪作業日報作成支援システムの導入を進めます
77 電話対応のコールセンター化の検討	新規	短期	a コールセンター化に向けた検討
			b コールセンター化に向けた準備・調整（システム構築）
			c コールセンターの設置・運営
78 定期的な休暇取得につながる仕組みの検討	新規	短期	a 除雪従事者の不規則な夜間勤務などの解消を検討
			b 除雪センターの夜間閉鎖の検討
			c 除雪従事者の定期的な休日確保に向け、週末の除雪作業の廃止を検討
<b>② 育成支援の充実</b>			
79 除雪機械の操作技術を学べる研修の実施	拡充	短期	a 参加者の作業内容や習得レベルに応じた、操作の知識や技術を学べる夏期の研修を開催 b 指導員となる除雪オペレーターの研修を開催 c 熟練除雪オペレーターから作業の注意点や操作技術を学べる冬期の研修を開催
80 除雪オペレーターの技術の継承	新規	中長期	a 視線の動きを追跡できるカメラを活用して、熟練除雪オペレーターの作業時の目の動きを見える化した運転技術習得教材の作成に向けた検討
			b 映像とハンドル操作による練習が可能なシミュレーター作成の検討



実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
—				← システムの検討 →		●	●	●			★	39
調査・検討	システム構築 試験運用 (100台)	システム改良 部分運用 (500台)	全面運用 (1,000台)		→	●	●	●			★	40
	← 実態調査 → ← 実現に向けた検討 →											
			← システム構築 →			●	●	●	●		★	41
				← 実証実験 →								
				3区 (20~6時)	3区 (12~20時)	3区 (6~12時)						
				← 部分運用 →								
				10区 (20~6時)	10区 (12~6時)							
—	取組項目 10. 「生活道路の除雪方法変更に向けた検討」と合わせて実施											
—	取組項目 77. 「電話対応のコールセンター化の検討」と合わせて実施					●	●	●				45
—	← 仕組や効果の検討 →		← 必要性の周知 →	← 取組の実施 →								
研修実施	← 研修の継続実施 →							●				45
—				← ICTを活用した教材等の作成に向けた検討 →		●		●			★	42
—				← ICTを活用したシミュレーター等の作成に向けた検討 →								

組項目	種別	実施時期	実施内容
<b>視点4 雪対策における市民力の結集</b>			
<b>(1) 市民と行政との協働の推進</b>			
<b>① 市民と行政の役割</b>			
81 市民と行政の協力体制の構築に向けた情報発信	拡充	短期	a 冬のくらしガイドなどの広報媒体を活用した広報
			b パブリシティ効果なども踏まえた、より効果的な広報の検討
82 砂まき活動の拡大に向けた取組の推進	拡充	短期	a 人通りの多少や既設砂箱の利用状況などを考慮したうえで、砂箱の効果的な配置を検討
			b 持ち運びしやすい砂袋の検討
			c 砂まき活動や春先の清掃活動への参加・協力のPR
<b>(2) 除雪ボランティア活動の取組強化</b>			
<b>① 除雪ボランティア活動の推進</b>			
85 除雪ボランティアのコーディネート	拡充	短期	・ 除雪ボランティアのコーディネートの実施
86 除雪ボランティア活動に対する支援	拡充	短期	・ 現在実施している除雪用具貸出制度などに加え、除雪ボランティアの拡大につながる更なる支援策を進めます
87 除雪ボランティアに係る町内会活動への更なる支援に向けた検討	新規	短期	a 更なる支援に向けた検討を実施
<b>② 担い手確保に向けた情報発信</b>			
88 除雪ボランティアの担い手確保に向けた広報	拡充	短期	a 福祉除雪事業の地域協力員の募集のため、新聞などのマスメディアを活用
			b 除雪ボランティアの活動事例を取りまとめ、札幌市のホームページなどで紹介
89 除雪ボランティア活動の普及に向けた広報	新規	短期	c 福祉除雪事業への協力企業のイメージアップとして、企業名などを札幌市のホームページなどに掲載
			d 国や他の機関が実施する除雪ボランティアの担い手募集に関する取組を活用
			a 除雪ボランティアを行っている団体や企業などの取材
			b 除雪ボランティアの活動事例を取りまとめ、札幌市のホームページなどで紹介
c 除雪ボランティアのニーズに関する情報発信			
d 除雪ボランティアを実施している団体や除雪ボランティアを始めようと考えている団体などに対して、札幌市が実施している支援制度や活動事例などをまとめたハンドブックを作成			

実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
実施	継続的に情報発信を実施								●	●		49
—	より効果的な広報の検討		可能な取組から実施						●	●		
—	砂まき活動の拡大に向けた取組を実施							●	●	●		49
	準備・調整 1団体 2団体		コーディネートの実施 4団体 6団体 8団体 10団体					●	●	●		47
実施 116団体	ボランティア実施団体 122団体 128団体 134団体 140団体 順次拡大							●	●	●		48
—	検討		可能な取組から実施					●	●	●		49
—	担い手確保に向けた効果的な広報を実施							●	●	●		50
—	除雪ボランティア活動の普及に向けた広報を実施							●	●	●		50
	ハンドブックの検討		ハンドブックの作成					●	●	●		

組項目	種別	実施 時期	実施内容
(3) 歩く人に優しい冬のみちづくり			
① 砂まき活動の推進			
90 砂まき活動の促進につながるイベントの開催	新規	短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 街頭啓発やCMなどの媒体を活用した砂まきキャンペーンを全市で実施</li> <li>b 砂まき体験を盛り込んだ出前講座や雪体験授業の実施</li> </ul>
91 砂まき協力企業の拡大に向けたPR	拡充	短期	a 札幌市のホームページでの協力企業の紹介
			b 砂まき協力企業ステッカーの作成・配布
② 冬期の安心・安全への意識向上			
93 冬のリスクから身を守るための留意点の周知	新規	短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ウィンターライフ推進協議会と連携した啓発活動</li> <li>b 札幌市ホームページに外国人を含む観光客向けの啓発情報ページを作成</li> <li>c 啓発情報ページのPR チラシを作成し、観光協会やホテルなど観光客が手にしやすい施設に配架</li> </ul>

実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
—		継続的にイベントを開催						●	●	●		51
—		継続的に企業PRを実施							●	●		51
—	ステッカー作成	砂まき協力企業においてステッカー掲示							●	●		51
—	準備・調整	準備が整ったものから広報を実施							●	●		51

組項目	種別	実施時期	実施内容
<b>視点5 雪対策に関する広報の充実</b>			
<b>(1) 冬の暮らしに関する広報</b>			
<b>① 冬のルール・マナー</b>			
94 「ルール順守」「マナー向上」につながる情報発信	拡充	短期	a 冬の暮らしガイドなどの広報媒体を活用した広報
			b パブリシティ効果なども踏まえた、より効果的な広報の検討
<b>② 冬の暮らしに関する教育の推進</b>			
96 雪体験授業の充実・拡大	拡充	短期	a 除雪作業や雪に関する出前授業と除雪機械試乗や砂入りペットボトル作成などを行う体験授業とを組み合わせた「雪体験授業」などを、これまで実施してきた小学校に加え、幼稚園や中学校などに拡大
97 小学校における雪に関する授業の充実	拡充	短期	a 子ども達の除雪作業への理解や雪対策に対する関心が高まるよう小学校における雪に関する授業の充実を図る
<b>(2) 多様な手法を活用した効果的な広報・啓発</b>			
<b>① 情報発信型の広報</b>			
100 様々な広報ツールを複合的に活用した情報発信	拡充	短期	a 新聞やテレビなどの注目度の高いメディアに加え、SNSやデジタルサイネージなど新たな広報ツールを複合的に活用し、効果的な広報を実施
			b 前日の作業実施箇所や当日の作業予定に加え、現在実施中の作業箇所などについて、テレビのデータ放送やホームページなどで公開するシステムを検討
<b>③ 行動型の啓発</b>			
104 悪質な路上駐車に対する実効性のある対応	拡充	短期	a 広報の強化(冬の暮らしガイドなどを活用し、路上駐車に関する法令や除雪作業への影響などを周知する広報を実施)
			b 町内会や警察と連携した合同パトロールの計画的実施
			c 指導・啓発の強化(町内会や警察と連携し、路上駐車の多いエリアに特化したチラシのポスティングを行うなど、チラシを活用した取組を実施)
			d 常習性があるような悪質な路上駐車に対する個別指導の強化(警察と連携した個別指導などの実施)

実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
実施	継続的に情報発信を実施					●	●		●			57
—	より効果的な広報の検討		可能な取組から実施									
実施	準備・調整		小学校に加え各校(園)のニーズに合わせて雪体験授業等を実施 10校(園) 20校(園) 30校(園)						●		57	
—	適宜見直しを行いながら授業の充実を図る								●		57	
実施	効果的な広報を実施								●	●	★	53
—	システムの検討											
実施	取組を継続											
実施	準備調整	状況に応じて取組を強化				●			●	●		55

組項目	種別	実施 時期	実施内容
105 「雪パト隊」の設置に向けた検討	新規	中長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 広報の強化（冬の暮らしガイドなどを活用し、道路への雪出しが道路交通に与える影響などを周知する広報を実施）</li> <li>b 指導・啓発の強化（指導・啓発用に特化したチラシを作成）</li> <li>c 常習性があるような悪質な雪出しに対する指導強化（パトロールなどを専門に行う「雪パト隊」の設置を検討）</li> </ul>
106 除雪作業に対する理解や協力につながる工夫	新規	短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 除雪機械に設置している名札の大きさや設置位置の検討</li> <li>b 排雪作業の作業範囲や問い合わせ先を表示した旗やコーンの設置</li> <li>c 色や表示を統一した安全チョッキや防寒着などの着用</li> </ul>



実施目標						取組効果					ICT活用	詳細ページ
						体制維持			生活環境改善	協働の推進		
						効率化・省力化	労働環境改善	担い手確保				
現状	2019	2020	2021	2022	2023							
実施			取組を継続									
実施	準備調整		状況に応じて取組を強化			●			●			56
—	実態調査		雪パト隊の設置に向けた準備・検討									
一部実施	準備・調整		可能なものから実施									
—	検討		可能なものから実施				●		●			58